

# CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3

■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)兵庫県私学会館建替PJ オフ	階数	地上18F
建設地	神戸市中央区北長狭通4丁目3番10	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	227 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2020年12月25日
敷地面積	1,685 m <sup>2</sup>	作成者	武内瑞穂
建築面積	768 m <sup>2</sup>	確認日	2020年12月25日
延床面積	7,345 m <sup>2</sup>	確認者	矢川修宏



ださい

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

環境品質 G

環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR3 敷地外環境

LR2 資源・マテリアル

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

音環境 2.6 温熱環境 3.3 光・視環境 2.4 空気質環境 4.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性 3.8 耐用性 2.8 対応性 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

生物環境 2.0 まちなみ 3.0 地域性・ 2.5

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

建物外皮の 4.1 自然エネ 3.0 設備システ 2.8 効率的 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源 3.4 非再生材料の 3.0 汚染物質 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

地球温暖化 3.7 地域環境 2.5 周辺環境 3.0

3 CASBEE神戸 の重要項目		
<h4>バリアフリー計画</h4> <p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>4.0</p>	<h4>建築物の耐震性等</h4> <p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>3.0</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>2.2</p>	<h4>まちなみ・景観への配慮</h4> <p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>3.0</p>
<p><b>配慮の概要</b></p> <p>バリアフリー法で定められている各基準を遵守するよう努めている。</p>		
<p><b>配慮の概要</b></p> <p>建築物基準法で定められている耐震性を確保している。</p>		
<p><b>配慮の概要</b></p> <p>周辺環境や街並みへ配慮し、良好な景観形成を図っている。外壁色は高明度色を選定し、明るい印象を与えるよう周辺からの眺めへ配慮した。</p>		
<p>その他の配慮事項</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される